

目次

序 言(佐野賢治)

第一章 戦後歴史学と網野善彦	1
二つの太良荘——戦後歴史学への自己批判	山本幸司……………3
網野・安良城論争をめぐって	三鬼清一郎……………19
近世史から見た網野善彦の業績	山口徹……………31
第二章 海への開眼——日本常民文化研究所月島分室での活動	43
網野さんの原点の、さらなるルーツ(月島分室の調査活動から1)	江田豊……………45
月島分室の回想断片(月島分室の調査活動から2)	五味克夫……………59
網野の軌跡、	
その成果と残されている課題(月島分室の調査活動から3)	二野瓶徳夫……………71
網野君は何を遺したか——網野君と私(月島分室の調査活動から4)	速水融……………81

網野善彦と日本常民文化研究所——マルクス主義から、常民主義へ……佐野賢治……	93
古文書探訪の記録——月島分室時代の網野善彦の足跡……	105
第三章 非農業民の位置づけ——神奈川大学常民研での調査活動……	109
時国家調査で得たもの……	111
泉 雅博……	111
百姓は農民ではない——百姓・非農業民・常民文化研究所……	125
白水 智……	125
海民という概念……	137
盛本昌広……	137
「海民的」企業家・時国左門の秘められた北方交易……	149
田島佳也……	149
——幕末、時国家の廻船交易の再検討……	161
列島史における「企業家」群像……	161
関口博巨……	161
——網野善彦「無縁」論・「百姓」論の先へ……	175
窪田涼子……	175
「古文書返却の旅」を受け継ぐ……	185
第四章 諸学との交流と葛藤……	185
考古学からみた網野善彦……	187
河野真知郎……	187
網野善彦と民俗学……	197
福田アジオ……	197
虹の彼方の網野善彦——文化人類学の立場から……	207
小馬 徹……	207
建築史の立場から……	219
西 和夫……	219
第五章 資料学への途……	229
「歴史民俗資料学」の提唱……	231
田上 繁……	231
「資料学」という場……	241
越智信也……	241
非文字資料と網野善彦……	253
川田順造……	253
翻訳からみた網野善彦の方法論……	267
アラン・クリステイ……	267
活動年譜——日本常民文化研究所と網野善彦……	277
付録CD解説——講演「日本列島における海民の移動と移住」について……	277